



【事例 8】 いすみ市 : ^{ふきら}吹良環境保全会

1. 組織の概要

協定締結年度	協定面積(ha)	構成員	集落数
平成19年度	49.8ha (田:48.8ha、畑:1ha)	農業者56名、 4団体、66個人	3

2. 地区の概要

吹良地区はいすみ鉄道の国吉駅から北に約4kmの場所に位置する、旧夷隅町の平坦な水田農業地帯です。

吹良は「国吉米」として、県内でも良質米の産地として知られています。

また、早くから環境保全型農業に取り組んでいたことから、営農活動支援にもスムーズに取り組むことができました。



環境保全型農業に取り組む水田の様子

3. 合意形成の経緯と組織の運営(経緯と運営の工夫等)

市が主催する説明会に、営農組合や農家組合、吹良用水組合の代表者が参加し、

この対策に取り組もうということになりました。当初は一般市民から疑問の声もありましたが、対策の趣旨を丁寧に説明して、活動組織の設立の合意を得ることが出来ました。

苦労した点は、役員を選出でした。

最終的には集落内にある13のグループから1名ずつ選出することで、集落全体の意見が反映されるように工夫しています。



泥上げ作業

4. 特徴的な活動について

(1) 共同活動の参加についての考え方

農家の90%近くが共同活動に参加していますが、全体では7割くらいの参加率となっています。

対策の趣旨からすると、集落皆で参加することが望ましいと思われませんが、保全会の会長は、「共同活動というのは集落に住む人々が、自らの意思で自分たちの住む集

景観形成活動



落を暮らしやすく、きれいにといいボランティア精神で参加すべきもの」と考えています。活動組織の活動を見て、今後、次第に参加者が増えてくることを期待しています。

(2) 生きもの調査について

この調査は、夷隅農林振興センターから提案があって、平成21年度から子供会を中心に始めています。本地区では子どもの数は10名程しかいないものの、どの子たちも生きもの多さに驚いている様子で、地域の豊かな自然環境に目を向けてくれるようになってきています。

このような活動を通じて、子どもの頃から地域への愛情を育てることが、地域の存続に大きく寄与すると考えています。



生きもの調査の様子

(3) 共同活動を通じて、集落に変化がみられた

この対策に取り組んでから、農業の現状について一般市民が理解と関心を示してくれるようになったとともに、農業者が取り組んでいる集落内の排水路の維持・管理活動について、集落の皆が考えてくれるようになったことが最大のメリットだと思います。



一般の方々の作業参加

(4) 集落の将来について

国吉米というブランドを持っていても、後継者は少なく、水田は小区画で作業性が悪いなど、解決すべき問題は山積しています。

しかし、今後は利用集積や機械の共同利用推進、さらには会社組織の立上げを行い、生産性の向上とともに、安定した稲作経営が継続できるよう集落ぐるみで検討を重ねていく予定です。

5. 今後の活動について

地域では集落機能の維持のためには、共同活動は継続しなければならないと考えています。そのためには、農業で生計が立てられる仕組みづくりを早急に打ち立てる必要があります。国吉米というブランドを活かした、県内水稲作のモデルケースとなるよう活動を推進していきたいと考えています。

